



# 新しい年も神さまに委ねて歩もう

大口教会主任司祭 M・アツシヤ

ハンガリーにこんな素敵  
な詩があります。  
ツバメとウグイスに「ど  
うして来たの」と尋ねたら、  
「消えるために来たのです」  
と答えた。  
花と人間の望みに「どう  
してあるの」と尋ねたら、  
「消えるために来たのです」  
と答えた。  
寒い冬に「どうしてやっ  
て来たの」と尋ねたら、  
「過ぎ去るために来たので  
す」と答えた。  
太陽と月と星に「どうし  
て存在するの」と尋ねたら、  
「消え去るために存在する  
のです」と答えた。  
棺と墓に「どうしてこの  
世にあるの」と尋ねたら、  
「過ぎ去るために来ました」  
と答えた。  
最後に万物の主なる神に  
「どうしておられるのです  
か」と尋ねたら、「私は、  
来たことも、過ぎ去ること  
もない。私は、常にお前た  
ちと共にいるのです」と答  
えた。  
そうです。常に私たちと  
一緒にいる神さまにまた新  
しい年のすべてを委ねまし  
よう。

## 新年のご挨拶

松森孝郎神父

教区の皆さま、明けまし  
ておめでとうございます。  
奄美大島は西仲勝にある  
特別養護老人ホーム「めぐ  
みの園」からご挨拶申し上  
げます。  
私は、二〇一三年の十月  
からここにお世話になって  
おります。こちらに入所し  
た当初は股関節の骨折のた  
め車椅子で、そしてそれで  
移動するのも困難なことで  
した。今は歩行訓練に励ん  
でいます。こちらのスタッ  
フの温かい指導のおかげ  
で、少しずつ脚に力が戻っ  
てきているようです。見守  
ってください。見守  
つてくださっていると、おつちよ  
ちよいの私は訓練に夢中  
になりますと手すりにはもう  
とづくに終わっているの  
に、気がつくことなく、歩  
き続けていることがあるよ  
うです。なんとも私らしい、  
お恥ずかしい限りです。  
これから回復のために  
しっかり訓練していきま  
す。皆さまも新しい年が充  
実し、よい一年となります  
ように、ごミサに、毎日の  
祈りに、そしてお仕事にと  
お励みください。奄美の地  
からご多幸をお祈りいたし  
ております。

## 1月18日～25日は キリスト教一致祈禱週間

「すべての人を一つにしてください」とい  
う最後の晩さんでのイエスの祈りに耳を傾  
けるわたしたちはまた、折にふれて目に見  
える一致を示すように求められています。  
それは、ともに祈り、支え合うことによっ  
て、神がすべての人の救いのためにイエス  
を遣わしたことを「世が信じるため」です  
（ヨハネ17・21～23参照）。  
キリスト教諸教会の間で毎年一月十八日  
から二十五日に定められている一致祈禱週  
間は、このことを強く意識する機会となる  
でしょう。この一致祈禱週間のために、教  
皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会  
協議会は一九六八年以来、毎年テーマを決  
め、「礼拝式文」と「八日間のための聖書と  
祈り」を作成しています。日本ではカトリ  
ック中央協議会と日本キリスト教協議会が  
共同で翻訳し、小冊子を発行しています。

## 聖母子像を設置

### 垂水教会

聖母子像の設置を終えた  
垂水教会（丸野六雄神父）  
では、十一月二十日（木）  
郡山司教による像の祝別式  
を行った。

垂水教会は二〇〇八年に  
それまで主任司祭だった田  
原章神父が引退してから、  
司祭不足もあつて教区管理  
となり司祭在任の教会では  
なくなつていた。そんな教  
会に司祭が派遣されたの  
は、今年の四月のこと。派



遣された丸野神父は、教会  
の機能回復のために尽力  
し、協力者もあつて、司祭

## 相談員13人が誕生

### きぼうの電話

六月から十一月末までの  
半年間、教区本部で開かれ  
た鹿児島きぼうの電話の  
「カウンセリング講座」の  
受講生から十三人の相談員  
が誕生した。  
鹿児島教区が悩みや苦し  
みのある人の電話相談業務

## 元ザビエル幼稚園主任

### 江田信さん追悼ミサ

モニカ江田信さんが十一  
月二十五日（火）、九十八  
歳で帰天した。  
信さんは廃園となつたザ  
ビエル幼稚園（一九五〇、  
一九八七年）に長年勤務し、  
主任として多くの子供たち  
の教育に尽力した。退職後  
は東京に住居を移していた  
信さんの追悼ミサは、一月  
十六日（金）午後五時から、  
永山幸弘神父の司式でザビ  
エル教会でささげられる。

## パン種

戦後七十年、敗戦の  
年に生まれた人が、古  
希を迎えるほどの歳月  
が流れる中、実際に戦  
争を体験し、五感を通  
して戦争の悲惨さを知  
る人たちの多くは亡く  
なっています。  
ですから、今、「こ  
の国のかたち」が大き  
く変わってきている現  
状を等閑することなく、真剣に考え  
るためにも、「戦争体験」の継承は急  
務と思います。  
父母や祖父母の戦争体験にしっか  
りと耳を傾ける必要があります。そ  
して、戦争がどんなに人間性を破壊

## 戦後七十年、平和を思う

し、自然を荒廃させてしまふかを柔  
らかい頭で想像してみてください。  
「なぜ、戦争が起きたのか」  
「戦争なのだから、仕方がないと、  
なぜ、多くの人は我慢したのか」  
「なぜ、アジアの近隣国への植民地  
支配や戦争による侵略を認め、和解  
のための努力をしないのか」  
十五年戦争の直接の当事者ではな  
い、戦後生まれの世代である私たち  
だからこそ、考えなければならぬ  
のです。



歩行練習に励む松森神父

▼市民クリスマス  
十二月十四日（日）ザビ  
エル教会で第五十四回市民  
クリスマスが開かれ、郡山  
司教の講演「それでも喜  
び・希望・感謝」や聖歌の  
披露があつた。

## 「短信」

▼取りなしの徹夜祈禱会  
十一月二十二日（土）か  
ら二十三日（日）まで、ザ  
ビエル教会で取りなしのた  
めに徹夜で祈る祈禱会があ  
つた。  
主催したのはカリスマに  
よる宣教の取りなし者「愛  
の泉」のメンバーたち。祈  
禱会には県外からの会員十  
五人余りも駆けつけ、鹿児  
島のメンバーたちと深い祈  
りをささげた。  
全国に会員を持つこのグ  
ループだが、日本で最初に  
組織されたのは鹿児島。そ  
のため鹿児島グループが  
本部となっている。  
今回の集いは第一回全国  
大会と位置づけられ、郡山  
司教の願いもあつて「教会  
から離れてしまつていると  
言われる若者たちのため」  
に祈りがささげられた。

なぜなら、私たちは次の世代に  
「戦争の歴史」を正しく語り継ぎ、ア  
ジアの近隣諸国と平和を築く責任が  
あるからです。そして「平和が脅か  
されるのは、人間が人間として当然  
与えられるべきすべてのものを与え  
られない場合、人間の尊厳  
が尊重されない場合、そし  
て市民生活が共通善に向け  
られていない場合です」と  
教会の社会教説が教える通  
り、社会的格差が拡大する現代社  
会の中で「平和」を私たちの心の中  
に深く根づく価値として浸透させる  
責任があると思います。神は「平和  
の主（士師記六・24）」です。  
（玉里教会主任司祭・小隈憲士）

# 厳かに屋久島教会でミサをささげる

## シドッチ神父没後三百年目の「記念祭」

日本での宣教のために屋久島に上陸したイタリア人宣教師ジョバンニ・パチスタ・シドッチ神父の功績を称える「シドッチ神父上陸記念祭」(屋久島町主催)が十一月二十四日(月)午前、屋久島町小島であった。神父没後三百年の記念すべきこの日の式典には、郡山司教をはじめ地元信者や本土からの信者が足を運んだほか、午後から屋久島教会でささげられたミサには、十人ほどの他教区からの巡礼者も加わり、共に神父の偉業を称えた。

日本での宣教のために一七〇八年十月に屋久島に上陸したシドッチ神父は、上

陸後すぐに捕縛され、長崎を経て江戸に送られ、小石川のキリシタン屋敷に幽閉された。神父は一七一四年秋に獄死したとされているが、その間、神父の取り調べにあたった新井白石がその供述などから「西洋紀聞」「采覧異言」などを著し、のちの開国につな



惜しめない心を願ってささげられたミサ

ろーマ法王クレメンス十一世から日本行きを命じられた神父だったが、宣教の成果としてはキリシタン屋敷

で神父の身の回りの世話をした長助とは別に洗礼を授けただけにとどまった。しかしながら神父の生き方は、長助、はるだけではない、取り調べにあたった新井白石とも信頼関係を築くなど、崇高だった。

屋久島では町が主体となつて、シドッチ神父の上陸記念前での式典を三十年あまり続けてきている。シドッチ祭ミサ

屋久島教会でささげられたミサは、郡山健次郎司教とアントニオ鄭法鐘神父(種子島・屋久島教会)、それに他教区からの巡礼者を案内した坂本進神父(溝辺

教会)の三人によつて司式された。

説教の中で郡山司教は、この日が聖イグナチオ・デ・ルガード司教とベトナムの百十六人の同志殉教者の記念日であることから、「どんな弾圧も信仰を根絶やしにすることはできない。それはキリストは苦しむ殉教者をただ眺めているだけではなく、一緒に闘つてくださるからだ」と力説した。

その上で、司教はシドッチ神父の功績にふれ、「わずかに二人に洗礼を授け亡くなった神父だが、彼もそのために死に至らしめられた殉教者だ。彼ら殉教者は神のためになら何も惜しまなかつた。私たちも毎日の生活の中で、他人のために惜しみなく自分を与える生き方をしていこう」とメッセージを送った。

### 宣教奉仕者十二人を任命

#### 受堅者も二十二名 徳之島

待降節の黙想指導のために徳之島を訪れた郡山健次郎司教は、十一月三十日(日)の母間教会

(大松正弘神父)で「神さまに寄り添う」をテーマに講話したほか、この日のミサで小学生から高校生まで

### 鈴木神父のやさしい言葉 「重い皮膚病の癒し」から

福音書の中でイエス様は何度も「あなたの信仰があなたを救った」という言葉を使われます。これはイエス様が癒しの業を成し遂げた際に用いる常套句のようなものですが、この言葉の意味を「らい病を患っている十人の人をいやす」場面から考えてみましょう(ルカ十七・11-19)。

求める十人の者たちに「祭司たちのところに行つて、体を見せなさい」と言いました(十七・14)。病気が癒されたことは祭司の証言によつてなされ、それによりその病気によるあらゆる差別が撤廃されます。このことから、イエス様は彼らが祭司たちに出会う前に病気が癒されることを前提としてこの言葉を発したと考

えられます。では、彼らはいつ癒されたのでしょうか? 日本語訳からすると「そこへ行く途中で清くされた」という言葉から、祭司たちのところへ行く道すがら、徐々に病気が治つていった、ということになります(十七・14)。しかし、原文では、「彼らは(イエス様の前から)下がることによつて、清められたことが生じた」と書かれています。つまり、患っている者たちが気付くことが前提で、イエス様の言葉を聞いて

たときに重い皮膚病は完全に癒されてしまつていたのです。イエス様の言葉を信じたサマリヤ人は癒されたことに気付いて直ぐに戻つて来ました。これに対して残りの者たちは、自分が癒されているか否かということよりも、祭司の証言を求めることに心が捉われていたの癒されていることに気付いていました。探しても祭司たちをた探してみませんか。彼らに戻つてこなかったのは、彼らに

### +KABAYAN SEKSYON+ Lubhang Mahalaga ang Paghuhubog sa Buong Pananampalataya

Nilalayan ng 2013 Liham Pastoral ng mga Obispong Pilipino (CBCP) para sa Taon ng Pananampalataya ang isang tunay na pagpapanibago sa pananampalataya ng mga Pilipinong Katoliko. Tinukoy ng mga Obispo ang mga bagay na dapat pagtuunan na siyang magiging batayan ng isang malalim na pagpapanibago.

“Ang mga kahinaan ng ating pananampalataya at ang mga paghamong hinaharap nito ay tinatawag tayo tungo sa isang panibago at integral na ebanghelisasyon, sa bagong ebanghelisasyon na may bagong sigla, bagong metodo, at bagong paraan ng pagpapahayag.”

Ang pagpapanibagong ito ay isang pangmatagalang proseso na “naglalayan at tutungo sa pagkahinog sa pananampalataya, isang pananampalatayang sapat sa kaalaman at pagsasabuhay, isang pananampalatayang nakatalaga sa misyon ng pagpapahayag ng Ebanghelyo ni Hesus, kasama ang pakikisangkot sa gawain ng katarungan at pagpapanibago ng lipunan.”

“Kailangan natin ang pagbabalik-loob at pagpapanibago... Su Balit hindi sapat na magkaroon ng intelektuwal na kaalaman lamang sa pananampalataya. Ang sadyang kailangan ay isang personal at mapagmahal na pagkilala sa Panginoong Hesus. Siya ang sentro ng ating pananampalataya!”

Ang pananampalatayang napanibago ay kailangan palaging nakabatay sa “isang buhay ng pagiging alagad.”

**Katesismo sa “Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)**

の十三人と大人九人に堅信の秘蹟を授けたほか、宣教奉仕者十二人を任命した。巡回教会の多い徳之島地区教会で、司祭の助け手となつて働く宣教奉仕者(任期五年)の任命を受けたのは、以下の通り(敬称略)。

名越静雄、順利夫、名越洋子、向井マツ子、池上利夫、浜田スミ子、新田和枝、今井弘恵、大川和美、シスター我妻志津枝、泰良トモエ、永井尚武

【四面に関連記事】

### 会と催し (1月)

- 1日(木) 神の母聖マリア
- 4日(日) 世界平和の日
- 7日(水) 七田八十吉神父命日(一九八〇年)
- 6日(火) ルカ神父命日(一九九八年)
- 7日(水) 教区司祭会・教区本部・16時
- 11日(日) 盛克志神父霊名(聖ライムンド)の主の洗礼
- 14日(水) 永島泰蔵神父命日(二〇〇二年)
- 18日(日) 年間第二主日
- 18日(日) キリスト教一致祈祷会・日本福音ルーテル鹿児島教会・14時
- 19日(月) レジオオマリエ・教区本部・13時
- 20日(火) ハイシク神父命日(一九八九年)
- 24日(土) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 25日(日) 臨床パストラルケア・教区本部・14時
- 25日(日) 年間第三主日
- 26日(月) 郡山健次郎司教霊名(パウロの回心)
- 26日(月) カトリック児童福祉の日(献金)
- 26日(月) オリーブの会・教区本部・14時
- 26日(月) 司祭大会・徳之島・29日まで
- 31日(土) フェリエ神父命日(一九一九年)
- 31日(土) 宣教学校・ザビエル教会・13時30分

祈りの意向

【ノベナ】「司祭大会」に向けて司祭のために(21日)

【祈祷の使徒会】世界共通・平和

宣 教・奉獻生活

日本の教会・キリスト者の使命

# 信徒総代に聞く(1)

## ザビエル教会 野田健太郎さん

鹿児島教区に小教区は二十九。各小教区の宣教司牧ならびに教会管理等に携わるのは司祭。だが司祭を支えるとともに各小教区の信徒をまとめ、教会運営や年間行事等の教会活動に陰日なたとなつて心を配る縁の下力持ちのような存在が信徒総代だ。普段は司祭に隠れて目立たない信徒総代。彼らにスポットを当て、各小教区の現状や課題等について聞いた。

### 思い出

教区のカテドラル、同教区で最大の信徒数(千十五人)を誇るザビエル教会の信徒総代は野田健太郎さん(六十八歳)。信徒総代を務めるのは二度目という。最初は一九九一年から九四年。任期中に同教会は百周年(創立は一八九一年)を迎えた。記念誌『ザビエル教会百年のあゆみ』発行に



奔走したのが記憶に残る。「まだ旧(第二代)聖堂があった頃。ザビエル幼稚園(旧聖堂に隣接)はずでに閉園していた」。野田さんは、その幼稚園では第二期生。「子どもの頃からここで育った」。大学へ進学し東京で過ごした約十年を除き、「ずっとザビエル教会を見てきた」。印象深いのは七田和三郎神父の姿という。七田神父は一九四六年から七二年まで、二十六年にわたりザビエル教会主任司祭を務めた。野田さんの幼少から青年期に一致する。「七田神父が個性あふれるリーダーシップを発揮し、信徒を引っ張っていた」

## 七年ぶりの司教訪問に沸いた徳之島

徳之島レポーター 浜田スミ子

十一月三十日(日) 徳之島教会は大きな恵みと喜びに満たされました。というのも、七年ぶりに郡山司教様をお迎えしたからです。

この日は待降節第一主日でもあったために、司教様指導の待降節の黙想会も同時に行われ、神様からの恵みである頂いた信仰を今一度受け止め、歩みべき信仰の道を確認することが出来ました。受堅者は小学生二人、中学生五人、高校生六人、大人九人の計二十二

という。「当時は(教会に)若い人も多く、教会の外に對しても活発だった」。

### 危惧

野田さんは今、かつてのような教会の外へ向けての活動が停滞気味なのが気にかかるという。かつてザビエル祭では、聖フランシスコ・ザビエルの御像を担ぎ提灯行列。教会に戻れば婦人会による温かいうどんが迎えてくれた冬の、恵まれない人々のための募金活動。また「生き方を考える集い」など、信者だけでなく一般の人々も集う事業も活発だったように思う。

「街の中心部に位置し交通の便もよく訪ねやすい」ザビエル教会の好条件を「生かされていないかも」と野田さん。信者でない人が同教会を訪れるのは現在、ほとんど観光に限られるという。「勉強会等、人を誘うのに都合がよいのだから、何か考えなければ」。

鹿児島は日本にキリスト教を初めてもたらした聖フランシスコ・ザビエルの上陸地。「鹿児島から日本全国に、アジアに、世界に発信を」と常々、郡山司教が語るのを野田さんは気に留める。だがザビエルそのものが現在、若い人々の間では忘れられつつあるという。「教会外への働きかけが減っていることの証かもしれない」と危惧する。

### カテドラルとして聖人ゆかりの教会として

しかし野田さんは諦めてはいない。ザビエル教会に近い、ある病院に入院していた方と付き添いの方のエピソード。入院当時、二人は信仰をもたなかった。外出の折、たまたま同教会に立ち寄り以来、度々訪れるように。やがて二人はともに受洗したという。

「教会に惹かれるものがあつたのだと思う」と野田さん。「今も教会の魅力は決して失われていない」と信じる。だから、「大きなものを打ち出すのではなくザビエル祭など、現在も続く小さな取り組みを膨らませたい」。教区を中心であ

### 文芸

#### 俳句

純心女子学園 山頭 信子  
時雨るるや生月大橋巡礼地  
ガブリエル天使描いて待降節  
鹿児島市 徳永ノブ子  
クリスマス近づく街の聖樹かな  
時雨るるや召されし人を忍びつつ  
鹿児島純心 川上 和  
小春日の笑顔の語らい絆つきず  
馬小屋の天使も歌う地に平和

#### 短歌

鴨池教会 前田 儀子  
ひ孫抱き頬寄せ笑ふ陽だまりの縁長生きは  
神の賜物  
浜木綿の実のふとりゆく墓原に夫ちはは  
妹の霊は眠るよ  
大笠利教会 稲 牛憲  
年金の暮らしに慣れたがむしやらに働きし  
過去が空しく思ゆ  
若き日にさくらの友と学び越し霜月残し笑  
顔去り逝く  
鹿児島純心 川上 和

またどこでも深刻な若者の教会離れ。ザビエル教会もその例にもれない。「どうしたら若い人々も集う場となるか」と野田さんも頭を悩ます。これについても、街の中心部に位置するとい

う同教会の立地条件を生かすことで突破口を見出した

### 編集後記

新しい一年がスタートしました。今年はどうなる出来事が待ち受けているのでしょうか。司教様は今年の教区のテ

マに「寄り添う」を掲げ、信徒一人ひとりが互いに心を開き合い、精神的にも物理的にも親しい共同体づくりを目指そうと訴えています。家族がその一人ひとり心配り、共に痛みを感じ、共に喜びを分かち合っているように、そんな共同体づくりを目指そうと言われているのでしようね。そして寄り添うと言え



教奉仕者十二人(徳之島一人、沖永良部一人)の任命を受けて頂きました。鹿児島教区では最も南の徳之島の信徒にとって、司

教様に会うことはなかなかないことです。前日、夕方の歓迎会では食事後も親しく沢山の信徒が司教様を囲んでお話しが盛り上がりました。翌日、九時から司教様指導の黙想会があり、「寄り添う神様」のテーマのもと、二時間休みなく司教様のお話をうなづきながらお聞きしました。

「神様が私たちと二十四時間寄り添って下さっている」「私たちは神様の掌に刻まれている」「朝起きぬけの祈りの大切さ」「行いのない信仰は死んだものである」...など多くの示唆に富むお話に皆さん引き込ま

## 一日黙想会へのお招き

「福音の喜び」～日常をイエスと共に～

日時：2015年2月11日(水) 9:30~16:00  
場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム 仙水町修道院 〒804-0015 北九州市戸畑区仙水町5-2  
講師：片柳弘史神父 (イエズス会・宇部・小野田ブロック担当司祭)  
会費：1,500円(昼食代含む)  
申込：シスター東城 TEL.093-871-1166 (受付時間は18時~20時) Eメール：cndshinkou@yahoo.co.jp  
締切：1月31日(土)